

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	2470600368
法人名	伊勢温泉観光株式会社
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地 (電話番号)	津市戸木町4113-11 (電話) 059-254-0606
評価機関名	三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 20 年 9 月 11 日(木)

## 【情報提供票より】 (H20年8月1日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	30 人	常勤 13人, 非常勤 17人, 常勤換算	23.9人

### (2)建物概要

建物構造	RC 造り
	5 階建ての 1 階 ~ 4 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(120,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,200円			

### (4)利用者の概要( 8 月 1 日現在)

利用者人数	27 名	男性	9 名	女性	18 名
要介護1	7 名	要介護2	9 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 80 歳	最低	70 歳	最高	93 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	中浜胃腸科・外科
---------	----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

拡大な敷地内にある事業所で自然に恵まれ四季おりおりを五感で感じられる。理解のある理事長はじめ介護歴豊富な施設長・管理者のもと利用者が安心して生活ができる、地域に根付いた事業所である。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点である「理念の文章についてももう少しシンプルに」は話し合いの結果「和顔愛語」とされ事業所だけではなく地域の方々にもこの理念で接するようにと改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者・職員で自己評価についての意義や目的は理解され全員で取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域の住民の理解を得る会議であるが、参加者の日程調整がとれずに継続が出来ていない。参加者の多い少ないではなく開催して頂く事の重要性を考え、積極的に参加してもらえようような取り組みが望まれる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族との連絡方法にはファックスを利用していただき希望・要望などの意見を聴き反映させサービスの向上につなげている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	日常の散歩で周辺住民とのかかわりを大切にされ、相互の行事などに参加したり事業所へ招いたりして交流をされている。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「和顔愛語」と理念をつくりあげて、利用者はもとより地域住民にも接し、地域の中で暮らし続けることを支えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	随所随所に掲げられ管理者・職員は理念を共有し実践に向けて日々取り組んでいる。年間行事計画にも記載されている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会・地域での行事に参加され、事業所での催し事を自治会の回覧板で廻してもらい参加していただき、地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価には運営者・管理者・職員で話し合い取り組み、自己評価・外部評価を実施することの意義は理解している。職員の気付きにもつながっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会を主に日程調整をされ、運営推進会議は開催されたが、その後の参加者の日程調整が難しく継続されていない。	○	地域住民との大切な会議であり、参加者の調整は難しくても継続できるよう工夫をされ、そこで出た意見などサービス向上に活かされることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者の一人が行政に関わりながら入居されていることで、ことあるごとに行政へ出向く機会をつくり、サービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月一回の請求書送付時にお小遣いの収支報告・健康面などおたよりと一緒に家族に個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱は設置されているが、利用される家族はなく、面会時に家族から直接意見や希望がどんどん話されている。外出時に面会にこられた家族から事前に知らせてほしかったとの意見があり、おたよりで知らせる様工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない異動の時も、職員は自身から紹介をするように心掛け、馴染みの関係づくりに努め、職員が変わることで利用者のダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が働きながら技術や知識を身に付けていくための工夫がなされ、併設のショートステイへの介護体験・他の施設の見学など、職のレベルアップへの応援体制がとられている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上につなげている。訪問された事業所の物干しの工夫をすぐに取り入れ、利用者と共に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の協力を得ながら相談や話し合いをし、徐々に馴染めるよう工夫がされている。困難な場合には家族に来てもらい、利用者に寄り添ってもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食文化など利用者から教えてもらい、一緒に作ったり支えあう関係を築いている。おはぎ・お寿司など若い職員は利用者から教えてもらう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と会話をできるだけもち、希望や意向の把握に努め、散歩で40分も歩かれる利用者にも職員と一緒に歩いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族と話し合い、ケアマネージャーから情報してもらい、それぞれの意見や希望を反映した介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の見直しを本人・家族・職員の意見や希望を話し合い作成され、状態変化に応じて随時新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の希望に応じ買い物、外食と柔軟な支援をしている。通院も家族の都合がつかない利用者には同伴をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療との関係を築き、適切な医療が受けられる体制が構築されており、かかりつけ医の往診の協力も得られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については早い段階から本人・家族と話し合い、方針は全員で共有している。家族が事業所での対応を希望される利用者には支援をしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の声掛けは利用者のプライバシーを損ねるようなことはなく、さりげない言葉掛けをしている。記録・個人情報の取り扱いも事務所内で保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員会議・ミーティングなどで業務を優先することのない様に確認し、利用者一人ひとりのペースを守るための工夫をされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳や後片付けなど、利用者の出来る方と職員と一緒に協力して行なわれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番でと希望される利用者もあり、順番を目で見れるようにとの理由から表にされ、利用者が納得できるよう工夫している。一人ひとりお湯の入れ替えをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からお経を唱える住職もみえる。又、職歴から新しい利用者を不審者と間違える利用者もみえる。それぞれの利用者が力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	屋内だけで過ごさず、散歩は日課とされおり、買い物など戸外に出掛けるよう支援がされている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全ての職員が鍵をかけることの弊害は理解されているが、戸外へ出られることからの不安から玄関には鍵をかけられる時もある。	○	運営者に玄関廻りにとび出すことができないスロープで事業所の廻りを保護する様に提案中である。一日も早く実行して頂くことを期待する。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方に運営推進会議で災害の際の協力が得られるように働きかけている。又、地域住民の地震体験を事業所の空き地を利用して行なっていただき、利用者も体験している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス・水分量は一日を通して確保されており、献立表からも見受けられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は木造りであり、利用者が心やすらぎ落ち着ける空間である。廊下はバリアフリーで、車椅子も移動しやすく居心地よく過ごせるよう工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者に自由に使っていただき、安心して過ごせるよう、使い慣れたものや好みのものを置かれている。		